

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「夢に向かって かがやく子」  
 ○自ら問題を発見し、主体的に考え、意欲的に学び続ける子を育てます。《知》  
 ○自分を大切に、他者を思いやって行動ができる優しさを育てます。《徳》  
 ○運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。《体》  
 ○夢や目標をもち、まちや社会のために、他者と協働する力を育てます。《公》  
 ○人とのつながりを大切に、広い視野でともに生きていく力を育てます。《開》

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>  
 <言語能力>  
 <心身ともにたくましく生きる力>

#### 具体化した資質・能力

他者を理解する態度・自己を肯定する姿  
 思いや考えを伝え合う力  
 目標を設定し、それに向かっていく力  
 約束やきまりを守る力  
 基本的な生活習慣

#### 中期取組目標

子ども一人一人を大切に学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し自信をもって行動する子を育てます。  
 ○豊かな感性を育み、明るさと優しさにあふれる温かな学校づくりに努めます。  
 ○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。  
 ○健康な心身を作るための生活習慣の形成と学校生活の約束を大切に作る気持ちを育てます。  
 ○家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かし、社会に開かれた学校づくり、地域から信頼される学校づくりに努めます。

#### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①児童の実態をもとに、教材研究を丁寧に行い、学習内容や方法、指導のねらいなどについて共通理解を図り、落ち着いた環境で学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業づくりに努める。 ②話す・聞く姿勢を重点的に育成し、個々の意見や考えを認め合い、互いに学び合えるようにする。
担当	学習委員会

#### 学力向上に関わる本校の状況

学力に関わる児童生徒の実態  
 図は、昨年度実施した横浜市学力状況調査の結果である。



本校の児童は、横浜市の平均または上回る結果となった。また、学年が上がるとともに、生活や学習の大切さを考えられるような傾向にある。しかし、その学習態度は受け身である児童が多い。高学年になると学習塾に通う児童が増えるためか、その傾向がより顕著になってくる。与えられる課題については、積極的に取り組み正解を見つけていることに喜びを感じる児童が多く、自ら課題を見つけ正解のない問いに思考をめぐらすことを苦手とする児童が多いと考えられる。また、日頃の学習の様子から、友だちの話を最後まで聞く、自分の考えを思いをもって話すことに課題があるように感じられる。

#### 今年度の目標

○自分の思いを大切に、豊かに学び合う

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【重点研究による子どもたちの学びへの還元】  
 ・子どもたちの実態を把握し、児童が授業の中で何を学ぶのかという「めあて」を明確にする。そして、主体的に取り組めるように学習のねらいや指導法の工夫などを学年で検討、共有する。  
 ・どの教科においても「話をしてる人に体に向けて聞く」などを教え、安心して授業に参加できる環境づくりに努める。  
 ・図画工作の学習を通して、自他の考えや思いを認め合い、尊重しながら学び合うような授業づくりに努める。  
 ・研究授業を伴う研究会を行い、授業力の向上を図る。

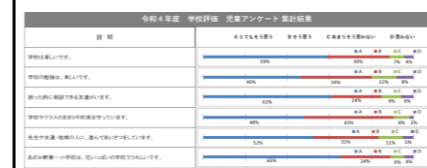
上半期  
下半期

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①子どもの日常的な学校生活の中で、道徳実践の指導を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要として児童の実態に基づいた道徳科の授業改善を図っていく。 ②「ひと」「もの」「こと」のつながりを大切に体験活動を多く取り入れ、自己肯定感や他者理解を深める。
担当	児童委員会 道徳部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態



・「学校が楽しい」と答えた児童の割合が減っている。社会状況の変化とともに他者と触れ合う機会が増え、様々な課題を見出した結果と考える。また、「困った時に相談できる友達が多い」という項目に「あてはまらない」と答えた児童が1割を超え、年々増えていることも気がかりな点である。  
 ・あいさつについては、約8割の児童ができていますと答えているが、保護者アンケートの中では、「学校外でもあいさつする姿が見たい」といった意見も寄せられた。児童の達成度と地域からの評価のずれを大切に、成長への足掛かりとしたい。  
 ・本校の特色である「花いっぱい学校である」ことを嬉しく思っている児童は多く、意欲的に活動に取り組む児童が多い。  
 (2) これまでの学校の取組状況  
 ・感染防止のため、グループ学習や集団活動を最低限にし、ICT機器を利用した活動を取り入れた。画面越しの姿だけでは伝わりにくい情報があり、相手を感じ、理解するとともに、自己についても見つめ直す時間が必要だと感じた。  
 ・校長、児童支援専任による登校時のあいさつや声かけ、計画委員会児童によるあいさつ運動を強化し、登校時に自分からあいさつする児童が増えてきた。一方で、そのほかの場面や校外でのあいさつに消極的な様子が見られる。  
 ・グリーン活動、クリーン活動を中心に、異学年交流を取り入れ、それぞれの役割を理解しながら、自己有用感を高める様子が見られた。

#### 今年度の目標

多くの「ひと」「もの」「こと」とのかかわりの中で、相手の立場に立った行動を実践できるような機会を大切にしていく。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育  
 ・道徳研修会を年間1回以上実施し、道徳の授業づくりについて研修し、指導に生かす。  
 ・主体的に自己を見つめ、よりよい生き方を求めようとする児童の育成をめざし、課題意識をしっかりともち、道徳的価値について自分事として考えられるような手立てを工夫する。また、振り返りの時間を十分に確保し、席配置や学習形態を工夫しながら意図的に取り入れることで、児童間で話を聞いてもらえる喜びを実感できるようにする。  
 ・児童の実態を踏まえ、道徳的価値を理解しやすくする資料カードや振り返りカードの充実を図る。  
 【自分づくり教育(キャリア教育)】夢や希望、目標をもてる子どもを育成する自分づくり教育  
 ・異学年児童同士が交流する活動を通して集団の中で役割意識を育み、自己有用感が味わえるような学習内容の充実を図る。  
 ・学校が主体となり、あざみサポーターズや外部団体と連携して、様々な教育活動に取り組み、社会との関わりに気付きながら未来への希望がもてるようにする。

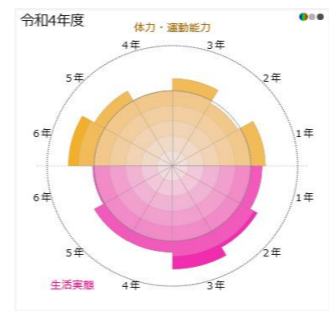
上半期  
下半期

#### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育科での指導や外遊び等、運動の楽しさを実感できる場を工夫し、体力向上に努めていく。 ②特別活動や教科との関連や養護教諭・栄養職員との連携を図り、児童が自らの健康に対して関心を高めていくようにする。
担当	体育部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

体育健康に関する実態(令和4年度新体力テスト)  
 【生活意識】  
 ・朝食の摂取率は市の平均と比較しても高く、ほとんどの学年で9割を超える。  
 ・睡眠時間についても8時間以上寝ている児童がすべての学年で半数以上いる。  
 ・携帯電話、ゲーム機の視聴時間に関しても市平均より少ないが、高学年になるにつれ時間が増加している傾向にある。  
 ・高学年になるにつれて一日の運動時間が減少する傾向が見られる。



【体力テスト】  
 ・ほとんどの項目が市の平均とほぼ同レベルである。  
 ・高学年の50m走では、市の平均を下回る結果が見られた。体育科の陸上運動などを中心に走力の技能向上を図る。

#### 今年度の目標

心身の健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

【授業での取り組み】  
 ・子ども自ら課題を把握し、めあてをもって安全に前向きに学習できるように、教師が運動の特性を踏まえて指導を展開できるようにする。  
 ・栄養職員や養護教諭と連携を図り、保健や健康に関する学びを深めていく。  
 【体育安全研修】  
 ・児童が安全に学習に取り組むことができるように指導の安全性を高めていく。  
 【体力アップ作戦】  
 ・運動委員会による体力向上の取組や運動に親しむ機会の確保(縄跳びやしゃぼり大会等、活動を継続して行う)  
 【学校保健委員会】  
 ・養護教諭や栄養職員と連携を図り、児童が生活習慣など、健康な学校生活を送るためのテーマを設定し、各学級が実践的に取り組めるようにする。

上半期  
下半期